

線維筋痛症 と診断されて

線維筋痛症とは、全身性の慢性疼痛疾患で、全身の広範囲な部位が痛むのが特徴で、痛みの程度も日常生活を送る上でほとんど支障のない程度から、激しい痛みのため自力で生活が出来なくなるものまであります。

原因は不明ですが、中枢神経の異常によって痛みの回路が変わり、痛みを増幅させているのではといかと考えられており、肉体的・精神的ストレスが引き金ではといかと言われています。

平成24年の春、ぎっくり腰がきっかけで、病院を転々としている内に発症しました。最初は腰だけの痛みが、首、肩、手にまで広がり、様々な検査を受けても異常が認められず、整形外科病院の先生もさじを投げました。漢方医から県立富山中央病院 和漢リウマチ科を紹介され、2か月後に診断されました。

当時は、歩くのも困難で、通院には、車椅子を使用した程です。この病気は、死に至る病ではありませんが、治療法は確立されておらず、薬物療法、カウンセリング、運動療法など、色々ためしてみなければ、わからず、1~2年で良くなる人もいれば、長期に症状が持続する人もいます。

そうはいつても月2回の通院もけこうきつく、私が出来る事は、先生の出してくれた薬を飲むや麻酔料で注射を打ったりする事ぐらいでした。

日常の家事もほとんど出来ず、少しやっては休み、ふとんも敷きっぱなしで、寝たきりに近い生活を送っていました。

半年くらいすきてから やっと杖歩行が出来るくらいの痛みのレベルになりました。平成26年の冬頃レモンホームさんとの出会いで、陶板浴というのを知りました。

病知と同じくらい「えれ何？」と思う程、初めて聞く名前でした。

開病生活を送っている方の体験談などを読み、こんな治療法もありかと思ひ、期待し、信じて通い続ける事にしました。

私の場合、週3回、1回につき、5分~10分、夏も休まずに通いました。

少しずつですが、日常生活も出来る事が多くなり、キッチンに10分か立てはかかったが、30分~40分まで立てる様になりました。10か月後 痛みの程度も、軽くなり、ついに、杖歩行から卒業する事が出来る様になりました。調子が良い時は、そうじにも挑戦しています。麻酔料の先生にも、お話ししたところ

「こんなに症状が良くなった人はめずらしい！」と言ってくださり、他の患者さんにも、それとなく、陶板浴が良いらしいと、おすすめていらっしゃるとの事です。

先生は「僕の口からすすめても、実行している人は少ないみたいだ」と、ホロリと、こぼされた事が、何度かあはしたか、2,3回病院で一緒たつた、Aさんの名前を、予約表でみつけた時はうれしくて、はげみになれればと思ひ、今回の体験談を書きました。

お名前：

ご住所：

電話番号